

地域の人たちと一緒に



よしおかはつひろ
高浜市長(愛知県) 吉岡初浩



でか落花生(ジャンボ落花生)

農業経験のない中で

私の家は、土管の製造から転身した地場産業の瓦製造業で、粘土やコークス、梱包用の荒縄やわらがいつも身近にありました。わらの山に潜って秘密基地を作ったり、粘土で遊んだりすることが日常でした。

高浜市は瓦製造業をはじめとしたものづくりのまちで、2次産業就業人口も現在は50%近くに上ります。私の家の周辺も瓦関係の工場が多い地域でしたが、昔は家から少し離れると、畑や田んぼもある時代でした。私の家も少しばかりの畑がありました。が、祖父が家で食べる野菜などを作っている程度でした。

そういう環境で育ったため、自分自身は農業経験はありませんでしたが、耕地面積が少ない本市でも何か特産物ができないかと思ひ、農業者の皆さんと相談しながら、大きな落花生(「ジャンボ落花生」、最近では「でか落花生」と言っています)作りに取り組むことになりました。

元々、地元では落花生は広く栽培がされており、祭礼の頃にはゆでた落花生を食べることが当たり前だったものの、大きな落花生を受け入れてくれるのか、という心配の声もありました。しかし、



でか落花生(ジャンボ落花生)の由来を確認する筆者

食べてみると、とてもおいしかったため、耕作していただける方が徐々に増え、今では大手のスーパーでも取り扱っていただけになるなど、少しずつ「高浜のジャンボ」が認められるようになりました。

最近では市職員も、家が農家であったり、農業経験があるものが少なく、地元の農業関係の方と話をすることも接点が少なくなっていたため、落花生作りをきっかけに、市職員有志で「園芸クラブ」を作り、農業体験に取り組んでいます。

私自身も、自宅の駐車場横にあるわずかな空き地を使い、慣れないながらも、ジャガイモ、落花生、サツマイモを中心に、毎

年植え付け、収穫を楽しんでいます。最近では、ブルーベリーやブドウ、行者ニンニク、アスパラガスなども作るようになりました。

農業は思うようにいかないことが多いですが、勉強しながら、取り組んでいます。

飲めない日本酒好き

若い頃から、仲間が集まると必ず送り担当になるほど、自他共に認める下戸で、晩酌はおろか、冷蔵庫にビールが入っていることもありません。こんな自分がまさか日本酒好きになるとは思ってもみないことでした。

はつきりとしたきつかけはわかりませんが、印象深い思い出が何度かあります。

かつて、同年会で熱かんを大量に頼む人がいたため、「そんなにおいしいなら飲んでみよう」と一杯飲んだところ、思わず酒瓶を手に取り、ラベルを見たほどのおいしさでした。その銘柄はもうありませんが、名古屋市のその酒蔵は、その後別の銘柄で非常に有名になりました。

また、東京での会合に愛知県の酒を持って行くことになり、推薦された愛知県東三河地方の有名な酒を持って行ったところ、とてもフルーティーでおいしく、以降の会でも指名されるようになりました。

別の会では、皆さんの酒が進んでいたにもかかわらず、ある山形県産の日本酒に変



子どもたちと酒米の田植えをする筆者

最近では、地域の子どもさんたちと田植えをし、あろうことか子どもさんが植えた米（酒米）で、大人が喜ぶ地酒を作る事業に参加しています。もちろん大人しか飲めませんが、名前だけは「子土盛」となりました。

ふるさと納税の返礼品にもなっていますので、よければぜひご賞味ください。

わった途端、その素晴らしさに全員の盃が止まったのには驚きました。

さまざまな場面でおいしい日本酒に巡り合っていたのですが、たくさん飲めない悲しさから、その場限りで終わっていました。そんな折、日本酒好きの方々が日本酒を持ち寄る「國酒こくしゅの会」に参加し、その会の乾杯で味わった一杯に衝撃を受けたとともに、皆さんが持ち寄った全国の酒が素晴らしく、個性があり、日本酒という存在に大変興味を覚えました。

たまたま、本市と関係がある大学の先生方の多くが日本酒好きであったこともありませんが、自分のような飲めない人間が惹かれた日本酒の魅力を若い人にも知ってもらいたいと思います、地方では必ず地酒をいただし、うんちくの種を仕入れていきます。

地域の若い方に誘われて

「一緒にやりませんか」

十数年前に地元の若い方々に誘われたのが始まりで、メンバーや選曲は変わりながらも、65歳を過ぎてもまだ続けさせていただいています。そう、私がバンドにお声かけいただいたのです。

私は楽譜を読むわけでもありませんので、足手まといだとは思いますが、少し年齢離れた方々と楽しくやらせていただいています。

初めは、新しくできた公園でイベントをやりたい、という地元商工会青年部の企画にお誘いを受けたことだと記憶しています。その日は、とても寒く、手がしびれていたのと、他のメンバーはちゃんとできている中、私はうまくできず、恥ずかし



高浜の地酒「子土盛」

かったことを覚えています。

そもそも、私はギターをジャカジャカとやって歌っている担当で、始めた当時は多少知っている曲もあったので良かったのですが、最近は知らない曲も増え、歳も歳なので声も衰えるなど、聞いている方には大変失礼をしていると思います。

コロナ前には、年に3、4回は地域のイベントなどで演奏する機会があり、私にとっては日常から離れる貴重な時間でした。ここ数年はコロナの様子を見ながら集まろうとしますが、メンバーの日程が合わなかったり（特に私ですが）、そもそもイベントも無くなるなど、代表の方にはご苦労をおかけしています。

今もイベントでの演奏は難しいですが、年代も仕事も超えたメンバーと、演奏や反省会での楽しい時間が早く復活できるようになることを心待ちにしています。



バンドで演奏する筆者